

広域避難の経路 被害懸念9市町



交通量の多い国道150号。災害時には一部で寸断や渋滞の可能性もある＝13日、牧之原市内（画像の一部を加工しています）

浜岡原発31km圏アンケート

複合災害時、住民が広域避難する際に想定される課題は

11市町の首長に実施したアンケートの回答（抜粋）

※首長名は敬称略

御前崎	下村勝	降雪対策、要配慮者の搬送、住民の理解促進
牧之原	杉本基久雄	道路の早期整備、冬季の雪道対策、避難するためのバスの確保
菊川	長谷川寛彦	降雪対策、市民への理解を深める
掛川	久保田崇	燃料確保、渋滞対策、降雪時の避難方法、関係機関との協力体制強化
焼津	中野弘道	各種マニュアル作成や訓練での検証
藤枝	北村正平	関係機関との協力体制の強化、燃料確保、渋滞対策、家族の支援が困難な在宅の要配慮者の避難
島田	染谷絹代	避難手段の確保、燃料確保、渋滞対策、要配慮者等の避難先の確保
袋井	大場規之	渋滞や降雪など避難経路の被害把握と復旧、物資確保、避難退域時検査場所の人員と資機材の確保
磐田	草地博昭	道路寸断、ガソリン補給、冬季の降雪・凍結対応、行政の人的資源不足
吉田	田村典彦	道路寸断やグリッドロックによる交通渋滞、住民の避難状況の把握
森	太田康雄	道路寸断、孤立集落の発生、車両確保

代替道 早期整備求める

静岡新聞社が浜岡原発の半径31km圏11市町の首長に実施したアンケートでは、大規模地震と原発事故の複合災害が起きた際の広域避難について、揺れや液状化などによる道路被害とその復旧を9市町が課題に挙げた。降雪対策は6市が言及。ハード、ソフトの両面で広域避難のハードルの高さが浮かび上がる。

車が行き交う牧之原市の国道150号。広域避難時に東名高速道までアクセスするための市内の基幹道路だが、一部区間では代替道がなく渋滞が懸念される。津波の浸水区域と重なり、複合災害時に寸断される可能性もある。市内の観光名所「大鐘家」の大鐘正典代表（69）は「地元住民であれば山道を通って避難できるが、観光客には難しい」と指摘し「災害時を考えると、近くにもう一本道路が欲しい」と訴える。

アンケートで同市は「国道150号バイパスなどの早期整備」を求めた。長年、国や県に整備を要望しているが、いまだ着工のめどは立っていない。能登半島地震では緊急輸送路を含めた道路の寸断が救助や救援の足かせとなった。藤枝市は「道路啓開など関係機関との協力体制の強化」が必要とする。袋井市や掛川市なども道路状況の把握や復旧を課題とする。

大規模災害では被害状況の確認や要救助者の救出、一般被災者の支援などさまざまな応急対応に行政職員が当たる。その上で、袋井市と磐田

市は原発事故の広域避難に携わる人的資源の不足を指摘した。藤枝、島田、御前崎の3市は「要配慮者の避難」と回答した。

今後、広域避難先へ避難する訓練を行う予定があるのは藤枝市と吉田のみ。牧之原市は「費用と時間がかかるため、現実的ではない」とする。御前崎市は「市単独ではできない訓練」とし、関係機関と検討する方針を示した。

（榛原支局・沢口翔斗）